

【奨励賞】 第9回 日本水大賞

白魚が棲み、子ども達が遊び泳げる 清流『隅田川』の再生 ～「隅田川市民交流実行委員会」の活動概要～

隅田川市民交流実行委員会

表-1

荒川水系隅田川

奥秩父の甲武信岳を源とする荒川の新岩渚水門から分かれて東京湾に注ぐ全長23.5km一級河川である。

平安時代の『伊勢物語』にも登場し、江戸期から舟運や納涼、花見、釣りなどで栄え現在に続いている。

隅田川にかかる橋は、永代橋、清洲橋、勝鬨橋など変化に富んだ橋が多く「橋の博物館」とも称され、多くの市民に親しまれている。夜間にはライトアップされ、美しい景観を醸し出している。

隅田川の防潮堤の前面には水辺を散策できるテラスを両岸に整備し、市街地の再開発などと合わせてスーパー堤防の整備も進められている。

尚、隅田川に合流する河川には、石神井川、神田川、小名木川(下町河川)、日本橋川などがあり、東京の都心部流域・水系を形成している。正に隅田川は「東京の顔」になっている。

劇など数多くの名作が生れた。

一方、明暦の大火、関東大震災、そして東京大空襲などで、逃げ遅れた人々の死体が、隅田川やその支流に浮かび、戦後の高度経済成長期には悪臭のただよう川に成り果てた。この隅田川が、再び川の生気を取り戻し、かつての清流に少しずつ近づくことのできたのは、多くの人々の熱意と努力による成果である。

特に、川の周辺に住み、日常、川を見つめ、この川を愛し、川とともに生きてきた人々が団結し、美しい川を昔の姿に戻し、隅田川を首都・東京の生活と文化の創造の拠点にしたいと願って、地道な活動を展開してきた。この啓発運動が世論の風



写真1

1. はじめに

東京のシンボルである隅田川の改善が進み、水辺のテラスや景観も整備され、家族連れや仲間同士で釣りや舟遊び、水辺の散策を楽しむ人々が増えてきた。

かつて、江戸文化の華であった隅田川は、人々の生活や文化と切っても切れない関係にあった。明治・大正・昭和の時代にも、隅田川によって生活を支えた人は多く、舟遊びやお花見、花火大会やボートレースなど、四季を彩る多くの行事は、隅田川の風物詩となり、庶民の粹な楽しみであった。隅田川を舞台にし、この川に触発されて、文学・美術・演

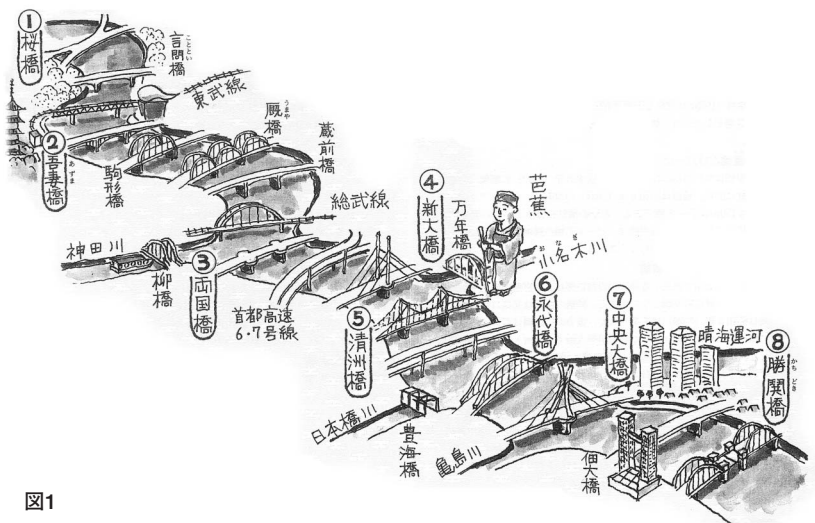


図1

を呼び寄せて、「隅田川を清流に」という大きな流れを後押しし、この20数年間に目的の達成に大きく近づけることができた。この活動の概要について述べることにする。(図-1、写真1)

2. 発足の経緯

1985年(昭和60年)11月10日、隅田川・荒川流域の28の文化・環境団体の代表が結集して、浅草公会堂で「隅田川市民サミット」を催し、「隅田川宣言」を発表し、隅田川市民交流実行委員会(島正之会長)が発足した。

宣言文は、隅田川を「白魚が棲み、子どもたちが水辺で遊び泳げる清流」にすると運動目標を揚げ、「戦後、人々は物質面の豊かさのみを求めるあまり心の豊かさを失い、その結果、産業経済の発展は、自然の生態系を次々と破壊しつつ、隅田川も例外なくその犠牲となった。そして、今日、人々は

ようやく失ったものの大きさに気づきはじめ、やっとそれらの再生や創造が試みられはじめた。しかし、一度死に瀕した川はそう簡単に復元するものではない」と問題点を提起し、「このような環境のなかで、我々は次の世代に『水と緑』の豊かな潤いのある生活環境を継承するため、これからは、いままでの反省をもとに、市民団体が団結して、行政に提案し力を合わせて、明日の隅田川の創造に向けて努力することを、ここに誓う」とまとめた。

3. 活動の概要と成果

本会は市民レベルでの交流を基本として、隅田川宣言を実現するために、隅田川・荒川水系に関して提言・啓発をし、川を軸とした快適なまちづくりを目指している。具体的には、市民サミット(表-2)をはじめ講演会やシンポジウム、視察・調査・研究やイベント、『隅田川の活動記録1985-

「隅田川市民サミット」の開催経過

第1回 1985年11月10日 浅草(台東区)
「隅田川宣言」発表、隅田川再生の運動目標

第2回 1986年10月11日 隅田川・荒川
船上視察と討議・隅田川宣言の実現

第3回 1987年11月 7日 深川(江東区)
「深川アピール」発表、シンポ「関東圏の水のネットワーク構想」及び諸団体の活動報告

第4回 1988年11月 6日 東日本橋(中央区)・隅田川
講演・野口富士夫「私と隅田川」、船上視察

第5回 1989年10月29日 隅田川、千住(足立区)
「千住アピール」発表、シンポ「これからどうする?! 隅田川」

第6回 1990年10月26日 隅田川・東京湾
船上視察

第7回 1991年 8月14日-15日 大滝(埼玉県秩父市)
「大滝アピール」発表、水源地視察と討議・森林の育成

第8回 1992年11月 1日 隅田川・荒川
講演・和波一夫「隅田川の水質と生物」、船上視察

第9回 1993年11月 3日 両国(墨田区)
「両国アピール」発表、講演・島正之「これからの隅田川像」と討議、シンポ「隅田川の風物・景観・水辺利用・環境」

第10回 1994年11月20日 隅田川・東京湾
講演・真泉光隆「隅田川大学の提唱」、船上視察と水質調査

第11回 1995年11月23日 吾妻橋(墨田区)
シンポ「21世紀の川の望ましい姿」、シンポレポート発行

第12回 1996年11月23日 隅田川・荒川・東京湾
講演・服部善郎「釣り今昔」、船上視察と水質調査

第13回 1997年11月24日 王子(北区)
「王子アピール」発表、講演・高野公男「水と緑のネットワークと討議、シンポ「東京北部のまちづくりと見学会」

第14回 1998年11月15日 隅田川・東京湾
討議・隅田川の水面利用と景観と船上視察

第15回 2001年11月25日 月島(中央区)
「月島アピール」発表、講演・隅田川河口域の今後と討議、シンポ「隅田川河口域のあり方」と見学会

第16回 2002年11月24日 隅田川・東京湾
講演・島正之「隅田川の現状と課題」、船上視察

第17回 2003年11月23日 浅草(台東区)
シンポ「これからどうする隅田川-21世紀の隅田川創造」

第18回 2004年11月20日 隅田川・東京湾
講演・葛西紀己子「隅田川の色・景観」、船上視察

第19回 2005年11月13日 浅草(台東区)
講演・島正之「隅田川活動20年の回顧と展望」、シンポ「交流から川と街の未来を創ろう!」、シンポレポート発行

第20回 2006年11月19日 隅田川
講演・久保田淳「文学から見た隅田川」、島正之「工学から見た隅田川」、船上視察

表-2

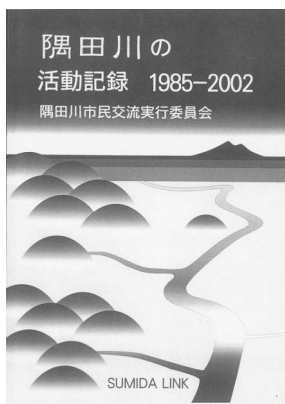


写真2

2002『写真2』をはじめとする出版活動他の河川との交流などを、できるだけ多くの市民とともに行動することが目標である。

今日まで、一步一步着実に続けてきた活動内容は、年2回発行の会報「すみだ川」に詳

細に記録しており、精力的に、多面的に、手作りの活動を進めてきた。その結果、橋梁やテラスの整備、スーパー堤防の建設、ウォーターフロント開発などの事業が進み、水辺の景観が向上、1998年（平成10年）には、東京都景観条例による景観基本軸（水の軸）第1号に隅田川が選ばれ、1999年（平成11年）には永代橋や清洲橋など隅田川の著名な橋梁8橋と旧岩淵水門が、東京都歴史的建造物に指定を受けた。

また、水面の活用が進み、水上バスや屋形船などの観光面やボートレースなどのスポーツ面も盛んになった。下水処理場の整備も進み、1997年（平成9年）には隅田川の水質環境基準が1類型向上してC類型となり、釣りを楽しむ人々の姿が増えた。春のお花見、夏の花火大会など、江戸期以来の風物詩もよみ返り、隅田川への関心が深まり、多くの



写真3



写真4



写真5

人々が水辺に集うようになった。その他、1990年（平成2年）には、四国の四万十川とわが国初の「友好河川提携」が実現したこと、公開講座「隅田川大学」を開講したなど、本会の活動は全国的に注目されている。尚、2006年（平成18年）には以上の活動に対し「地球環境大賞」を受賞した。（写真-3～5）

4. 隅田川再生への最近の活動

東京は本来、“水の都”であった。現在のような人工的に創られた都市の中では人間性回復・発露の場として、水とか土とか緑とか自然系を取り入れることが必要になり、川や水辺が大切になってくる。

隅田川の水質向上と共にスーパー堤防、テラス、防災船着場等のハード施設整備が促進され、次には景観形成や水生物生態系の保全・育成、水辺の触れ合い機能などソフト整備が必要になる。地域の自然は地域住民が創り・育て・守って行くことも必要である。市民運動として沿川の歴史・文化啓蒙やテラス、ワンドに草花植栽、メダカの放流等を実施し、景観を良くし憩い空間を創り治水・利水・環境のバランスある隅田川再生へ向けて活動している。（写真-6～9）



写真6 駒形橋テラス池での植栽



写真7 駒形橋テラス池でのメダカ放流

5. おわりに

本会の発足の経緯および活動の概念について述べたが、発足時の目標「白魚が棲み、子ども達が水辺で遊び泳げる清流『隅田川』」を実現するため、市民レベルでの交流を基本として活動を続けていきたい。(表-3)(写真8-9)



写真8 フィールドワークでの解説風景 墨田公園

「隅田川市民交流会実行委員会」の概要 (2007年4月20日現在)

- | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|----------------|----------|------------------|----------|--------------|----------|--------|----------|---------------------|----------|------------|----------|
| <p>1. 会の名称：隅田川市民交流実行委員会
(略称...隅田川サミット、英文...Sumida Link)</p> <p>2. 設立年月日：昭和60年(1985年)11月10日</p> <p>3. 本部・事務所
所在地：〒111-0025 東京都台東区東浅草2-20-6
TEL.03(3872)7441</p> <p>4. 目的：昭和60年11月10日の「隅田川宣言」に述べられている隅田川創造の目標の実現に向かって活動し、人々の交流を深め、会員相互の親睦を図ることを目的とする。</p> <p>5. 事業：上記目的を達成するため、文化政経活動を通じて啓発提言活動を行う。</p> <p>6. 代表者：会長 島 正之</p> <p>7. 会員：上記目的の趣旨に賛同する団体および個人で構成する。会員数247名、30団体</p> | <p>8. 組織：会長、幹事長、幹事、監事、相談役、事務局</p> <p>9. 会の性格：NGO、NPO
東京都環境保全局「自然保護民間団体名簿」に登録、環境週間東京都実行委員会・環境保全推進委員会・みどりの推進委員会、隅田川流域連絡会等のメンバー</p> <p>10. 受賞歴：</p> <table border="0"> <tbody> <tr> <td>フェリシモ '94サンタ大賞</td> <td>1994年12月</td> </tr> <tr> <td>第22回山本有三記念 郷土文化賞</td> <td>2000年 2月</td> </tr> <tr> <td>第39回東京都公園協会賞</td> <td>2004年 4月</td> </tr> <tr> <td>東京都環境賞</td> <td>2004年 6月</td> </tr> <tr> <td>あしたの日本を創る協会ふるさとづくり賞</td> <td>2004年11月</td> </tr> <tr> <td>第15回地球環境大賞</td> <td>2006年 4月</td> </tr> </tbody> </table> | フェリシモ '94サンタ大賞 | 1994年12月 | 第22回山本有三記念 郷土文化賞 | 2000年 2月 | 第39回東京都公園協会賞 | 2004年 4月 | 東京都環境賞 | 2004年 6月 | あしたの日本を創る協会ふるさとづくり賞 | 2004年11月 | 第15回地球環境大賞 | 2006年 4月 |
| フェリシモ '94サンタ大賞 | 1994年12月 | | | | | | | | | | | | |
| 第22回山本有三記念 郷土文化賞 | 2000年 2月 | | | | | | | | | | | | |
| 第39回東京都公園協会賞 | 2004年 4月 | | | | | | | | | | | | |
| 東京都環境賞 | 2004年 6月 | | | | | | | | | | | | |
| あしたの日本を創る協会ふるさとづくり賞 | 2004年11月 | | | | | | | | | | | | |
| 第15回地球環境大賞 | 2006年 4月 | | | | | | | | | | | | |

表-3



写真9 フィールドワーク集合写真 桜橋

会長 島 正之